

## （ 第22回地域づくり団体全国研修交流会奈良大会が開催 ）

### 「歴史に遊び、未来を語る」～奈良でまったりしませんか～

2月17日（木）、奈良県で初めて、地域づくり団体全国研修交流会が大淀町文化会館で開催された。

今回の奈良大会は、奈良県地域づくり団体協議会が発足して10年が経過し、県内各地で取り組んできた成果を踏まえ、全国各地からの参加者（約330人）と地域の未来を語り合うことを目的に開催された。

（主催：地域づくり団体全国協議会、奈良大会実行委員会、奈良県など）

全体会では、主催者からの挨拶や大淀町の能楽グループ「ちびっこ桧垣本座」の公演が行なわれた。その後、参加者は11市町村で開催する分科会会場へ移動し、17、18日の2日間にわたって各分科会のテーマについて話し合った。17日の夜は20時～翌日2時頃まで夜なべ談義が行なわれ、地域づくり活動の悩みの話し合いや、情報交換などが行われた。

開催地	テーマ
奈良市	歴史観光都市奈良における新しいまちづくりへの挑戦
大和高田市	自分たちのまちは自分たちでつくる！
橿原市	残って、遺した癒しの町並み
五條市	プロジェクト“X”挑戦者達
御所市	役の行者生誕地のまちづくり
斑鳩町	和を以って貴しと為す
曽爾村	観光と交流による地域づくり
明日香村	地域まるごと博物館づくり
吉野町	世界遺産・吉野のまちづくり
黒滝村	何も無い・・・から、始めました
川上村	芸術なんてよ～わからん!? 山の“あ～と”の村おこし

#### ●曽爾村の分科会では

曽爾村では、平成10年度から同村が観光交流施設の整備を始め、その施設を財団法人曽爾村観光振興公社が運営し、住民の参画を進めながら地域の活性化を図ってきた。雇用の創出や一定の経済効果は現れているが、更に地域を元気にする方法が話し合われた。

分科会（参加20名）では、他県の参加者から「ススキで有名な曽爾高原、屏風岩、兜岳など自然景観に恵まれている村を活かしていくには、行政主導のまちづくりから、地元住民の声を聞く方向へ転換していくことも重要」との提案があった。

また交流会では、3月下旬の曽爾高原の山焼きは現状防災を重視して関係者でやっているが、『ススキを守る会』（仮称）を作ってボランティアを募り、地元住民、都市住民参加でやってみてはどうか」との意見もあった。

#### ●橿原市の分科会では

450年の歴史を持つ寺内町である、橿原市の「今井町」では、先人が残した貴重な文化遺産を後世に継承すべく、まちづくりを進めている。住民は、伝統文化と現代生活の狭間にあり、今後の今井町をどうしていくかが議論された。

分科会（参加25名）のコーディネーター奈良女子大学生活環境部の上野邦一教授から、倉敷の町並み保存などを紹介しながら、空家を活用する方法として、伝統技術を持った匠を集めるという提案があった。パネラーからは、周辺地域の住民とのコミュニティ作りの意見が出ていた。

\*\*\*\*\*

行政主導ではなく、市民自ら、あるいは行政との協働での地域づくりが大切と感じた。今後の地域づくりの更なる発展を期待している。（上田）



橿原市分科会「残って、遺した癒しの町並み」会場